

令和7年度 第1回 風力発電部会 議 事 録

1. 開催日時 令和7年12月25日(木) 15:00～16:30

2. 開催場所 宇和島市役所津島支所 本館2階 会議室

3. 出席者

(1) 委員 (12名)

宇和島市 産業経済部長 梶原 祥敬
宇和島市 市民環境部長 平田 幸
宇和島市 産業経済部 農林課長 二宮 貴紀
宇和島市 市民環境部 生活環境課長 兵頭 利樹
宇和島市 津島支所長 山田 政彦
(株)GF プロジェクトマネージャー 岩村 友和
JR 東日本エネルギー開発(株) 事業マネジメント部担当部長 井上 宏和 (web出席)
えひめ南農業協同組合 総務課長補佐 柴田 昌稔
御槇財産区管理会 会長 山口 一光
畑地財産区管理会 会長 山中 均
上槇地区自治会 自治会長 代表 児島 勝利
愛媛大学大学院理工学研究科 教授 松下 正史 (web出席)

(2) 関係者 (5名)

槇川正木ウィンドファーム合同会社 代表社員 (株)GF 職務執行者 平岡 達
(株)GF 取締役 近藤 雅也
(株)GF 槇川正木ウィンドプロジェクト 狩野 圭一郎
(株)GF 中島 隆介 (web出席)
JR 東日本エネルギー開発(株)
経営戦略部 兼 事業マネジメント部 兼 開発部 シニアチーフ 菊池 亮 (web出席)

(3) オブザーバー (4名)

愛媛県南予地方局 農業振興課担当係長 高橋 幸嗣
愛媛県南予地方局 森林林業課主任 萩原 竹人
中国四国農政局 生産部 環境・技術課 課長補佐 藤原 高広 (web出席)
中国四国農政局
生産部 環境・技術課 再生可能エネルギー・バイオマス係長 伊藤 千香 (web出席)

(4) 事務局 (3名)

宇和島市 市民環境部 生活環境課 課長補佐 立花 裕嗣
〃 環境政策係長 高田 昌宏
〃 環境政策係 主任 山本 百合香

4. 協議事項

- (1) 部会長選任
- (2) 槇川正木ウィンドファームの進捗状況等について
- (3) 風力発電事業に係る資金の提供について

5. 配布資料

- 資料 1 協議会次第
- 資料 2 委員名簿
- 資料 3 宇和島市農山漁村再生可能エネルギー導入促進基本計画
- 資料 4 槇川正木ウィンドファーム事業工事進捗について
- 資料 5 風力発電事業に係る資金の提供について

6. 協議

事務局

【開会】

開会を宣言。
本部会は設置要綱第 2 条第 3 項に基づき、風力発電事業を専門的に検討するために招集するもの。
部会所属委員 14 名のうち 12 名が出席。
協議会の設置目的と委員の構成について説明。

事務局

【委員出席者紹介】

当日出席している委員・関係者・オブザーバー・事務局の紹介。

事務局

【資料確認】

配布資料を確認。

事務局

【協議】

協議事項 1 部会長選任

部会における協議をスムーズに進めるため、部会長選任を提案。

全委員

(異議なし)

事務局

部会長選任について、意見を求める。

兵頭委員

事務局一任。

事務局

事務局が平田市民環境部長の選任を提案。

全委員

(異議なし)

平田委員

承諾。

平田部会長

【会長挨拶】

平田部会長挨拶。

平田部会長

協議事項 2 槇川正木ウィンドファームの進捗状況等について【資料 4】
株式会社 GF、JR 東日本エネルギー開発株式会社から、説明を求める。

岩村委員

榎川正木ウィンドファーム事業の工事進捗について資料4を基に説明する。

(事業位置図、1号機から8号機までの写真の説明)

平碇から20kmほど篠山方面に向かった場所で事業を行っている。資料12月8日撮影写真のとおり、8基全て建設終了している。

(全体工程表の説明)

来年(2026年)2月末までに試運転等の調整を終え、3月から運転開始予定。

(現場の状況の説明)

12月現在、植栽基材を吹き付け、砕石を敷均したヤード、防災施設工、管理棟、ヤード、法面等の工事を順次進めている。

(風車の建方の進捗状況の説明)

現在、8基中3基(2号機~4号機)が試運転中。

(風車の輸送全体経路図の説明)

宿毛新港から風車を輸送。一部既設の道路幅では運べないため、側溝、縁石、カーブミラーを外し、道路拡張工事を行った。

(風車輸送路復旧状況図の説明)

復旧済み箇所と未復旧箇所を説明。

井上委員

(地元貢献の取組について)

再生可能エネルギーの導入と地域の漁業、農業、林業の発展、活性化の力になるため約束した5項目がある。

(地元貢献の取組状況【進捗中】①)

林業インフラは工事が完全に終了していないため、整備を進める部分が残っている。

道路改良を進め、作業道として一部活用可能となり、森林管理者と協定を締結している。今後も林業関係者に役立つため整備を進めていきたいと考えている。2026年度には前後を含めて活用可能となる予定である。

(地元貢献の取組状況【進捗中】②)

地元製品のPRと販路拡大への協力について説明。

JR東日本グループで運営しているwebのサイト(JRE MALL)で、首都圏向けに地元製品のPR販売に取り組んでいる。これを地元の役に立てたいと考えている。

昨年度は宇和島市内の17事業者が、宇和島マルシェという形で、宇和島市の協力の下、webサイトにてイベントを開催した。

(地元貢献の取組状況【進捗中】③)

自治会の行事への協賛について説明。

御檜地区の運動会や球技大会では、お礼の手紙を受け取り、今後も継続したいと考えている。

(地元貢献の取組状況【進捗中】④⑤)

闘牛大会や愛南トライアスロン大会のイベントに協賛している。今後も継続して協賛する予定である。

環境教育・次世代育成への貢献については、地元の小学生の向けに風力発電所の見学ツアーを実施した。このようなイベントについても随時検討する。

(地元貢献の取組状況【今後着手予定】)

年間 500 万円を 20 年間、地域の持続的財源として拠出する予定である。資金拠出に向け調整を行っている。

運転開始後の地元雇用の創出について、発電所を運営するにあたり、様々なメンテナンス作業が発生することから、地元の事業者、関係団体への委託を検討している。

これまで、土木電気工事は地元の事業者にも、仕事を担っていただき、引き続きよろしくお願ひしたい。

平田部会長

報告について、質問・意見・要望はないか。
中国四国農政局 藤原様・伊藤様、補足等はないか。

農政局
藤原課長補佐

これからの取組もあるが、特に農産物の PR とか、全国的にも面白い良い取組をされてると思う。

制度上、決定権は市にあるため、うまく管理していただければ良い。農林業者の発展に寄与する取組をしていくルールの下で、うまく活用していただければ良いと思っている。引き続きよろしくお願ひしたい。

平田部会長

他に意見等はないか。

全委員

(異議なし)

平田部会長

異議なしと認め、当協議案を承認するものとする。

平田部会長

協議事項 3 風力発電事業に係る資金の提供について【資料 5】

事務局に説明を求める。

事務局

榎川正木ウィンドファーム合同会社の設備整備計画（[3 再生可能エネルギー発電設備の整備と併せて行う農林漁業の健全な発展に資する取組]）について説明。

- ・ 運転開始の翌年度＝令和 8 年度（令和 8 年 3 月運転開始）
- ・ 年間 500 万円×20 年間＝1 億円

宇和島市農山漁村再生可能エネルギー導入促進基本計画（以下、「基本計画」）にある「4. 再生可能エネルギー発電設備の整備と併せて促進する農林漁業の健全な発展に資する取組に関する事項」を説明。

基本計画

(前文省略)

一方、風力発電においては、発電事業が地域の農林水産業と協調を保てるよう売電収入の中から一定程度の資金を市に提供することとする。

市は、①提供された資金を基金化した上で、②農林水産業団体等の要望を精査し、③地域の農林水産業へ寄与する事業等に活用することとし、④活用事業については、毎年度見直しを行うとともに、再生可能エネルギーの地域利用についても検討し、幅広い農林水産業の地域振興策を目指すこととする。

また、発電事業者は、関係施設及び林道の除草等の保守業務を地元林業関係団体等に委託することにより、地元企業の雇用・活性化に寄与することとする。

基本計画に基づく基金活用 (①～④)

市	取組詳細
①	基金条例を作成 (&要綱作成) 年1回取崩し&積み立て (定期預金) 基金=公金 (宇和島市会計規則に則る)
②	市全域の農林水産業団体が対象
③	要望を予算化し、翌年度に活用 ※令和8年度は基金として定期預金へ積み立てし、取崩しは令和9年度以降となる。
④	基金条例に基づき、基金を使い切るまで幅広い地域振興策を目指す ※基金がなくなるまで、活用について協議会を開催し検討必須。

20年以上の活用のため、地元委員への負担が増加。

⇒スピード感がないなどの懸念がある。

現状のまま取り組んでよろしいか。皆様の意見を伺いたい。

平田部会長

今ほどの説明について、質問・意見・要望等を求める。

山中委員

基金は宇和島市が保有するのか。

事務局

市が保有する。

山中委員

市に活用を要望しても、基金に入ったら簡単には使えないのでは。

事務局

活用準備までに2年ほど時間を要する。

山中委員 現在、財産区の資金は、基金に積み立てて使えない。
林道の修繕を依頼しても簡単に使わせてもらえない。今回の件も、活用を依頼しても使いにくいのではないか。

山口委員 市の基金に入れ、財政の係が基金を使うことに関して厳しい査定をするのは良いことであると思う。
地元の要望事項、地元の農林業の振興（担い手を育てる）に、スムーズに使えたら最適なのではないかと思う。地元が協議して、使ってもらいたいと意見を挙げたことにはスムーズに活用させてもらいたいと思う。

山中委員 風力発電事業者は、資金を積み立てておくために 20 年間拠出するわけではないと思う。基金化すると財産区の基金みたいに貯蓄したままで支出させないようなことになる（ことを危惧している）。
基金に入れても良いが、山口委員が言われたように、多く要望を出してもらおうような仕組みにしてもらいたい。

山口委員 基金条例は作るのか。

事務局 現行計画どおりであれば（条例を）作ることになる。

山口委員 財産区と同様に、条例の中で支出することに関して、厳しい査定は良いことだと思うが、地元が協議して、要望を挙げたことは、スムーズに支出してくれるような条例と資金にしなければならない。

山中委員 津島地域に使わせてもらいたい。
風車は、御槇地区、上槇地区、畑地地区の、山間部の人が一番迷惑して建設したものである。その地域の人々が、林道の草刈りや林道を修繕するような費用に活用させてもらえればとても良いと思う。

山口委員 平成 25 年頃から数年間、御槇地区をまとめるのに苦労した。地区が分裂したのをまとめるのに大変苦労した。

山中委員 山間部と離れた沿岸部の要望に支出する計画は、ちょっと考えが違うのではないか。

山口委員 槇川正木ウィンドファームという名称が存在する以上、槇川や愛南町正木地区の方々はとても苦労を重ねてきたと思う。

山中委員 私は地域に優先的に使われるようにしてほしい。基金に入れず、仮に入

れたとしても、事業を実施し、支出して活用する必要がある。

市が基金を保持して支出しないというのは良くない。その辺をきちんとしてほしいと思う。

山口委員

事業で使用するによってこそ、金銭の価値が発揮される。その点をしっかりと理解してもらえれば良いと思う。その点に関しては、何ら文句はない。

山中委員

御檜や畑地には財産区が存在するが、その基金について自由に使用することはできない状況である。提供される資金を基金に入れたら同様の状況となると感じている。この点について使用を許可される仕組みを設ける必要がある。

条例をそのようなルールとして整備することが適切であると思う。

提供された資金を受け取った場合には速やかに使用できる体制を整える必要がある。

山口委員

地域貢献については、私たちの地区では少子高齢化が顕著な中、若者は地域振興を目指しているが資金に関し悩んでいる。今回の資金を活用できるようになれば大変喜ばしいことではある。

基金化には反対するものではないが、使い勝手の良い条例を制定してほしいと考える。

事務局

基金に入れると市全域の農林水産業や団体が対象となる。使い勝手が悪いというのもご意見のとおりで、これを使い勝手の良い基金にするというのは難しい。

山口委員

私はこれまで大変な苦労を経験した。地域外に使う必要はないと感じている。

山中委員

御檜や上檜の山間部の人々が一番苦労していると思う。その地域には財産区の山が多く存在している。山奥には、林道が通っているが、手入れがされていないため荒れてしまっている。この資金を「林道の手入れの費用に活用できるのでは」という期待があった。

しかし、基金に入ると、簡単には活用できなくなるという問題がある。このことについては皆が理解している。

山口委員

どれほどの苦労があったかという点については、ぜひとも理解してもらいたい。当時、御檜地区では、コミュニティーが崩壊するほどの影響があり、度重なる会議が開催されるに至った。

平田部会長	<p>基本計画では、農林水産業へ寄与する事業のために提供された資金を基金化するとある。</p> <p>基金化について事務局から説明があったが、再度説明は必要か。</p>
山中委員	<p>不要である。基金化による流れは理解した。</p>
平田部会長	<p>まず基金化すると円滑な資金活用が難しい。次に、地元の方の大変な苦勞があった。また、地元の事業へ優先的に使っていきたい、という意見をいただいた。</p> <p>委員の方から、他に意見・質問はないか。</p>
全委員	<p>(意見なし)</p>
平田部会長	<p>中国四国農政局 藤原様・伊藤様、何か意見・補足等はないか。</p>
農政局 藤原課長補佐	<p>現段階では、こちらから具体的な意見を述べるのが難しい状況であるため、まずは市の中で議論を深めていただきたい。今回の件は市主導の取組であるため、制度上の観点からも市が農林漁業や地域の状況をどう捉え、どのように取り組むかについては、市の考えで進めることに問題はない。</p> <p>とはいえ、地元ではこれまで多大なご苦勞があったことは理解している。地元と対立を避けるべく調整を行うための協議会である以上、この場で十分に議論を行っていただきたい。地元にとって有利となるような基金化の方向でルールを設定できるのであれば、そのような使い方が可能となると思う。</p> <p>基金化という意見も出ていることから、地元重点を置いた使い方が可能になるよう改正するのか、また別の使い方をするのかを検討するなど、今後さらに議論を進めるべきと考えるが、いかがか。以上。</p>
平田部会長	<p>基金化について、事務局から、計画のどおり基金を積むのか、或いは地元有利な事業に使えるような方法として何か提案はあるか。</p>
事務局	<p>現状では基本計画を変えない限り、基金化することになる。</p> <p>基金化すると、地元優先に活用することはできないということ。委員の意見にあるように事業がなかなか進まないところがあるので、事務局としては基本計画を変更し、別の活用の仕方もあるのではないかと考えている。</p>
山中委員	<p>その方策を実行していただくのが良いであろう。</p> <p>基金化について述べるばかりでなく、他の考え方があるのであれば、そ</p>

それを提示する必要がある。宇和島市としての方針もあると思うし、先ほど述べたように、それを提出していただくことが望ましい。本日の会議で結論を出すわけではない。

平田部会長

他に意見あるか。

山口委員

苦勞した地元が優先的に使えるような条例案などを制定していただきたい。そのような取組があれば、私たちは地元の話を持ち帰り、地元住民に対してしっかりと説明することが可能となる。そうでなければ、『お前は何かをしているのか』と批判を受けることになる。宇和島市が基金を設置して吉田町や三間町に使用するという説明では、地元への説得が困難である。宇和島市として市全体の農林水産業の振興に活用したいという意向も理解はできるが、地元の苦勞や私たちのような人間の努力があってこそ実現した事業である以上、その点について考慮すべきだと思う。この点に関して、私はどうしても納得できない部分がある。

山中委員

事務局が今言われたように、何か良い方法があれば、それを提出してほしい。

平田部会長

事務局。

事務局

市は、提供された資金を基金化する方針を基本計画に盛り込んでいる。この基本計画は、皆様の協議を経て策定したものである。しかし、現在の協議で、「基金化した上で」という内容について意見があり、使いづらいつい指摘があり、一部変更することは可能であると考えている。今回の意見を受けて、「基金化した上で」という点が変更対象であると感じている。また、この資金が市に入ると、市全体で活用するという考え方が基本になる。そのため、資金を誰が受け取るかについて、さらに検討を重ねた上で、新たな提案や説明を行う必要があると考えている。

山中委員

どこの事業をしてほしいと要望したら、それに対して、全額投入できなくとも、そのために、どの程度資金を活用することができるといった計画を作成してほしい。

事務局

資金を市が受け取り、それを交付金のような形で配分することか。

山中委員

一部負担するなどの方法である。また、毎年実施する必要はなく、長いスパンで複数回行うことが求められる場合もある。特に草が生えるような問題は、今後 20 年の間に何度も対処しなければならないことが考えられ

る。

- 事務局 財産区の基金の利用に関して、市が事業化し、予算化を経た上で事業化していくプロセスを踏む必要がある。しかしながら、その過程で、市と皆様とのスピード感や温度差の違いがあり、その結果として基金が十分に活用されない状況になってしまうことがある。
- 山中委員 以前、担当課に要望を伝えたが対応してもらえなかった経験があるため、このような意見を述べている。資金の使い勝手が良い方法に整備しておいた方が良いのではないか感じている。
- 事務局 現行の計画にある「基金化」という文言は外すべきであると感じている。
- 山中委員 私たちから言うだけではいけないので、きちんと相談して検討してほしい。
- 事務局 協議会で皆の合意を得た上で、その内容を計画に反映する形となる。
- 山口委員 改めて苦労した過去を皆様に知っていただきたい。
- 平田部会長 事業者の方から何か意見等ないか。
- 岩村委員 私はこの事業に携わって3年目となるので、設計開発当初については経験しておらず、当時のご苦労を直接実感することができない。しかしながら、多くの様々なご苦労があつて、今にちまで取組を進めてきているので、地元の方々に、活用していただくことが最も望ましいと考える。その点については、今後協議を重ね、最善の方法を選んでいただければと思う。
- 山口委員 基金化という方法は有益ではあると感じているが、使い勝手の良い方法が重要であると考えている。財産区の基金化に関する制度と同様な形が適切かどうか、慎重に検討する必要がある。
- 平田部会長 他の委員、意見等ないか。
- 兵頭委員 事務局に確認したい。基金に積む場合、使用範囲が広範囲になり、活用には、約2年ほどの期間を要するとある。先ほど他の委員からあつたように使い勝手良くコントロールすることが可能かという点については、難しいのではないかという印象を持っているが、その点についての見解はいかがか。

事務局	<p>地域を限定した基金の設置条例を議会に上程する場合、賛同が得られない可能性がある。基金は幅広い地域を対象に活用してほしい、といった反対意見が出るのが想定され、その結果、基金条例が否決される可能性も考えられる。</p>
兵頭委員	<p>仮に基金に積まなかった場合に、こういった資金の受け皿の方法があるか。</p>
事務局	<p>基金に積まない場合、市への寄附として取り扱い、市の事業の財源として活用する。別の受け入れ方法として協議会で管理するための口座を開設することが考えられる。その場合は、口座の設立や会計監査などの手続きが必要となるものの、協議会内でより柔軟に運用できる可能性がある。</p> <p>さらに、協議会内で農林水産業に資する特定の事業を計画し、その財源として500万円を充当する旨を決定した場合、事業に必要な分を風力発電会社から都度支払いを受ける形を採ることも可能と考える。この方法であれば、協議会が独自に口座を設ける必要はないと思う。</p>
山中委員	<p>風力発電会社は500万円拠出するという計画のため、必要な分として都度払いを受ける形よりも、500万円一括で受け取る方が良いと考える。</p>
事務局	<p>確かにそのとおりではあるが、太陽光発電の場合は、そうした手法を採用している。事業者側からの事業報告や会計報告が比較的スムーズに進んでいる印象を抱いている。</p>
山中委員	<p>業者を中心に資金を運用するのであれば、宇和島市とあれこれする必要はないであろう。</p>
事務局	<p>地元の方々の意見や、求められているスピード感については、問題ないと考える。</p>
山中委員	<p>岩村委員にお願いして事務局の業務を担当していただくことができるのであれば、それが望ましいと思う。資金を入れるのであれば、毎年3月末か4月初めに500万円を拠出するようにし、その資金を通帳に管理する。その後、具体的な事業案を提示し、その都度必要な金額を通帳から引き出す形にする。宇和島市にとってもその方が適切であると考えている。そういうことも検討してほしい。</p>
平田部会長	<p>他に意見はないか。</p>

児島委員	<p>山口委員や山中委員が述べたように、基金に組み入れた場合、財産区の資金が使用されにくい運用方法であるならば、風力発電事業者からの寄附金も柔軟に活用される可能性が低くなると感じている。事務局が提案している資金の運用方法について、基金という形式ではなく、別の形で資金を運用する方が良いのではないかと考える。</p> <p>特に山間部の状況を鑑みると、山中委員からあったように、山地で作業をしているため、どこで土砂災害が発生するかわからず、災害対策にも資金を使う必要性が生じる可能性がある。別途口座を設ける形で資金を管理する方が、より柔軟で効率的な対応が可能になるのではないかとと思う。</p>
山中委員	<p>それは良いと思う。見積から必要な資金を提示し、事業実施の許可を取る必要があると思う。実際に活用する際は、協議会を実施することが必要である。</p>
平田部会長	<p>他に意見はないか。</p>
兵頭委員	<p>今回の風力発電事業は宇和島市と愛南町にも跨がり、愛南町でも協議会で検討が行われているものと推察される。愛南町の動向について情報収集を行いながら、適切な受け入れ方法について模索したいと考える。</p>
平田部会長	<p>基金化は活用の際に使いづらいという意見をいただいた。また、地元の農林漁村のために活用することを優先したいとの意見も伺っている。資金提供を予定している愛南町の動向について情報収集を行いたいという意見をいただいているものと認識した。以上でよろしいか。</p> <p>これで、中国四国農政局 藤原様、伊藤様、補足等ないか。</p>
農政局 藤原課長補佐	<p>助言という立場であるため、協議会で示された先ほどの意見も考慮して最終的な決定権は市に委ねたい。資金は農林漁業のために使用されるものと考えられるが、その使用用途については厳重に監視・管理する必要がある。収支の部分については、市ではなく協議会で確認し、不適切な用途、すなわち個人的な利用や農林漁業以外への使用がないよう厳格な方法を取ることが望ましい。</p> <p>市が広域的に資金を使用するという考え方も重要であると認識している。地元にも優遇的に使えるルールを設定できるのであれば、基金化が最適であると考えられる。基金化に関しては市が関与する形になるため、適切だと思われる。市独自の事情や議会の構成等から、実現は多くの課題が存在すると認識している。そのため、簡便で適切かつ厳格な運用方法を模索する必要がある。</p>

市に多くの負担がかかることが予想されるが、十分な議論を重ねた上で決定されるべきである。提供された資金を有効活用し、発電事業だけでなく地域全体の発展に寄与する取組となることを望む。地域が資金提供によって互いに利益を享受できる形となるよう尽力していただきたい。

平田部会長

事務局としても、いただいた意見を下に次の案を検討し、作成を進める段階に移行するものとする。本日、この場で決定することはできないが、可能な限り迅速に新たな案を提示できるよう取り組むと思われる。その際は改めて委員は協議へ参加をお願いすることになるが、よろしいか。

全委員

(異議なし)

平田部会長

【その他】

その他、全体を通して、質問・意見・要望等はないか。
ないようであれば、持ち越し案件を含めて議事を終了し、事務局に進行をお返しする。

事務局

【事務連絡】

要綱第8条第3項に基づき、後日議事録を公表する旨を説明。
委員報酬の支払いに関する手続きについて説明。

事務局

【閉会】

閉会を宣言。

以上